

証券コード：8012



NAGASE
長瀬産業株式会社

第101期 中間株主通信

2015年4月1日 — 2015年9月30日

目次

株主の皆様へ	1
目で見える連結決算ハイライト	3
トピックス	5
目で見える連結財務諸表	7
会社情報／株式情報	9
株主さまアンケートご協力をお願い	10

NAGASE

REPORT

創業200周年に当たる2032年に向けた 飛躍的なチャレンジに邁進いたします。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第101期上期(2015年4月1日から2015年9月30日まで)の経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月



代表取締役社長 朝倉 研二

Q 上期の営業状況についてお聞かせください。

A 主に海外子会社における売上高の伸長により、増収増益となりました。

上期における国内の経済情勢は緩やかに回復する一方、輸出の伸び悩みが見られました。海外では米国は景気回復が続いているものの、中国をはじめとするアジア経済の減速などから、全体的には先行きの不透明さが増えています。

そうした中で当社グループの営業状況は、売上高、営業利益、経常利益とも前年同期を上回りました。

当上期の連結売上高は、国内販売が1,787億9千万円(前年同期比3.6%減)、海外販売が1,972億7千万円(同5.3%増)、合計は3,760億6千万円(同0.9%増)となりました。

利益面では、増収に加え、前年同期に台湾子会社において貸倒引当金を計上した影響もあり、営業利益が100億3千万円(同26.1%増)、経常利益は101億8千万円(同11.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用が増加したこと等により、65億円(同2.4%減)となりました。

Q 通期の見通しはいかがですか？

A 期初に公表した見通しどおり、増収増益を見込んでおります。

足元の事業環境は、やはり中国の景気減速をはじめアジア経済の先行き不透明感はありますが、OA・家電業界向け合成樹脂販売やスキンケア・トイレタリー業界向け原料販売および医療関連ビジネス等が好調に推移する見通しです。このような状況を踏まえ、期初に公表した見通しどおり、売上高8,230億円(前期比8.3%増)、営業利益195億円(同7.4%増)、経常利益206億円(同1.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益121億円(同6.9%増)を見込んでいます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 創業200周年に向けた、これまでにない飛躍的なチャレンジをスタートし、株主の皆様への還元を充実させていきます。

今年6月、創業200周年に当たる2032年までの長期経営方針を策定いたしました。この方針の骨子は

「成長に向けたチャレンジ」と「成長を支える運営基盤の強化」です。「成長に向けたチャレンジ」では、これまでの事業の延長だけでは成し得ない飛躍的な成長を実現し、成長への手段として、大型投資も含めた事業投資も検討いたします。

「成長を支える経営基盤の強化」では、成長に向けたチャレンジを成功に導くために、グローバルガバナンスの再構築等、事業の拡大とグローバル化に寄与する経営基盤を構築していきます。その達成に向けた第1ステップとして、来年度から2020年度までの中期経営計画をスタートし、資本効率を高める体制と経営基盤の再整備を進める予定です。中期経営計画につきましては、次回の第101期株主通信(2016年6月発行予定)にて、詳細をご報告させていただきます。

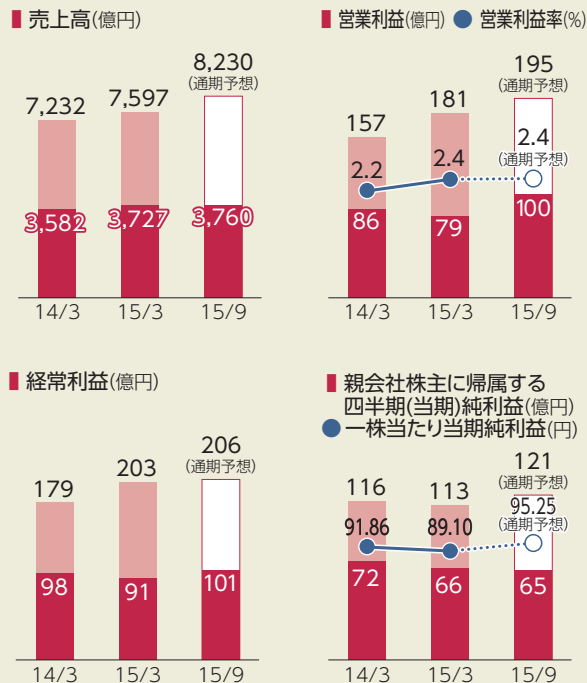
中間配当につきましては、当初の予定通り1円の増配を実施し、1株当たり16円とさせていただきました。期末配当についても同様に、1株あたり16円を予定し、6期連続増配を果たす考えでおります。当社は引き続き一層の業績向上に努め、株主の皆様への利益還元をさらに充実させてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの将来性にご期待いただき、今後とも長きにわたりご支援を賜りますようお願い申し上げます。

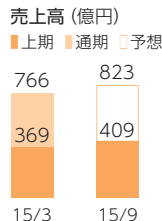
Checkpoint

- ✓ **売上高**：主に海外子会社における売上高の伸長により増収
- ✓ **営業利益**：売上高の増加に加え前第2四半期連結累計期間に台湾子会社において貸倒引当金を計上した影響等により増益
- ✓ **親会社株主に帰属する四半期純利益**：税金費用が増加したこと等により減益

連結決算ハイライト



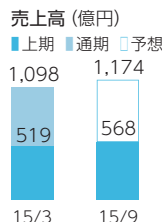
売上高 ● **409** 億円 営業利益 ● **16** 億円



○ 上期の概況

国内および海外共に売上が増加。ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品分野での自社製品の売上や医薬・医療分野での医療材料の売上が増加。ビューティケア製品事業は、販売が低調で減収。

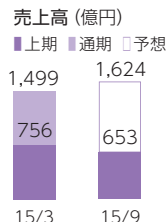
売上高 ● **568** 億円 営業利益 ● **7** 億円



○ 上期の概況

国内は自動車生産台数の減少の影響を受け売上は低調となるも、海外において米州、中国および東南アジアが全体的に好調に推移し全体の売上は増加。

売上高 ● **653** 億円 営業利益 ● **37** 億円



○ 上期の概況

欧米での売上は増加も、国内および北東アジアでの売上が減少。電子化学品事業は、エポキシ樹脂関連が好調で売上が増加。電子資材事業は、液晶関連部材の売上が減少。

生活関連
セグメント



加工材料
セグメント

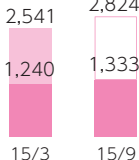


売上高・1,333億円

営業利益・25億円

売上高(億円)

■上期 ■通期 □予想



○ 上期の概況

国内は微減も、北東アジアおよび東南アジアが増加、欧米は微増。カラー&プロセスニング事業は増収。OA・家電用途関連の事業は、国内売上が減少も、北東アジアおよび東南アジアが好調で増収。



機能素材
セグメント

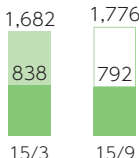


売上高・792億円

営業利益・20億円

売上高(億円)

■上期 ■通期 □予想



○ 上期の概況

海外売上は増加も、国内は減収し全体の売上は減少。機能化学品事業は塗料原料およびウレタン原料等の売上が減少し、全体の売上は減少。スペシャリティケミカル事業は、加工油剤等が低調で売上は減少。

自動車・エネルギー
セグメント

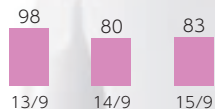


電子
セグメント

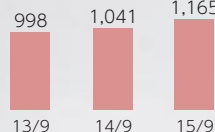


地域別売上高
(億円)

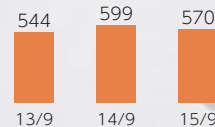
○ 欧州



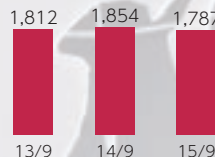
○ 北東アジア



○ 東南アジア



○ 日本



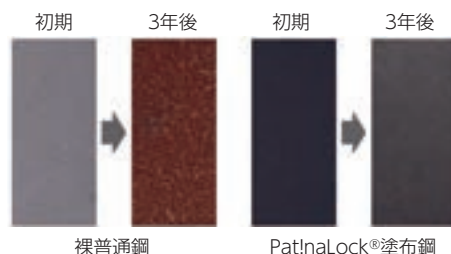
○ 北米



TOPICS
1 "さびで錆を制す"「Pat!naLock®」
第6回「ものづくり日本大賞」特別賞を受賞

当社と株式会社京都マテリアルズが開発した「Pat!naLock®/パティナーロック」が、第6回「ものづくり日本大賞」において、「"さびで錆を制す" 鉄鋼インフラを長寿命化する反応性塗料の研究開発」で特別賞を受賞しました。「Pat!naLock®」は、錆の性質やその結晶構造を長年研究した防錆技術で、鋼材面に良質で安定したさび層を形成させることで、母材を腐食から守るという新発想の反応性塗料です。鋼構造物のライフサイクルコストの大幅削減に加え、下地の錆除去処理の簡素化により、施工コストの削減も可能にします。

Pat!naLock®



TOPICS
2 食品用高純度トレハロース専用工場
増築プロジェクト開始

株式会社林原の「岡山機能糖質工場」では、8月に本格稼働を開始したS棟に続き、隣接するT棟の増築も開始しました。食品用の高純度トレハロース「トレハ®」の専用工場であるT棟は、今回の増築により、濃縮装置、結晶化装置、自動ラック倉庫などを設置し、製造能力を増強。より一層の省エネルギー、自動化、効率化などにより、安全で安心いただける製品の安定供給はもとより、主力製品の競争力強化を推進していきます。竣工は、来年9月の予定です。



岡山機能糖質工場・T棟

トレハ 新キャラクター



トレハちゃん とれっち たもっち

TOPICS
3 酵素の力で作る水溶性食物繊維
「ファイバリクサ™」新発売

株式会社林原は、新たな機能性糖質製品「ファイバリクサ™」を発売しました。これは、澱粉に酵素を作用させて作った水溶性食物繊維で、昨今注目されている食物繊維の摂取不足や、腸内環境改善を目的とした飲料・食品などの原料としてご活用いただけます。固形分あたり80%以上の食物繊維を含み、甘さや臭いがほとんどなく、変色しにくいので、食品に使用しても味や色を損ねません。林原としては、主力商品「トレハ®」に次ぐ大型製品に育てるべく、今後活発な販売活動を行っていく予定です。



ファイバリクサ™
荷姿写真



ファイバリクサ™
粉末写真

NEW ナガセ ビューティケアの新商品をご紹介します

さらなる進化を遂げたクレンジングの名品 「ナガセ クレンジングクリーム」新発売

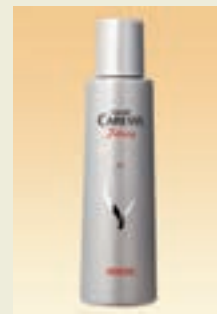
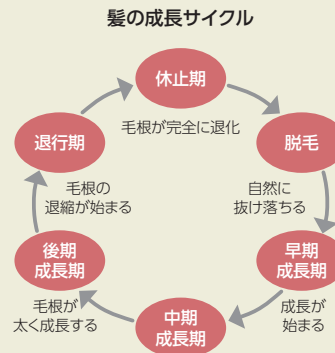
角質の重層化に着目した新成分「ソフニングエッセンス」、[セラチノ バイタライズ]、[ゴールデンカモミールエキス]を配合し、うるおいを残しながらも汚れをしっかりと落とすクリームタイプのクレンジング「ナガセ クレンジングクリーム」を発売しました。お肌には不要な古い角質や汚れを優しく取り除き、やわらかいお肌をサポート。高いクレンジング力とみずみずしいテクスチャーの両立を実現しています。



ナガセ クレンジングクリーム

すこやかな髪のコツを促す男女兼用の 「ナガセ ケアシス タフティープ」新発売

“発毛促進・育毛”と“脱毛予防”の両面からアプローチする男女兼用の薬用育毛剤「ナガセ ケアシス タフティープ」を発売しました。薄毛・脱毛は、加齢やストレスにより、髪のコツが短くなったり、休止期からなかなか成長期に移行しないことが原因と考えられています。2種類の有効成分「パンテノール」、[ヒノキチオール]のほか、「ビワ葉エキス」、[ジユエエキス]などを配合。毛髪環境を整え、発毛促進・育毛サポートと脱毛を予防し、日々のケアですこやかな髪を育みます。



ナガセ ケアシス タフティープ

上質な肌を呼び覚ます「ナガセ ロズマリスト」新発売

2016年1月にDNA修復システムに着目したクリーム「ナガセ ロズマリスト」を新発売します。長年の研究により生みだされたオリジナル成分「クコの実発酵エキス」を配合。新成分「ローズマリーエキスDS」を含む5つのオリジナルローズマリーエキスとの組み合わせにより、年齢とともに低下する“美しくなる力”を呼び覚ます働きをサポートします。性質の異なる複数の成分を肌に効率的に届け、輝きあふれる上質な肌を目指します。



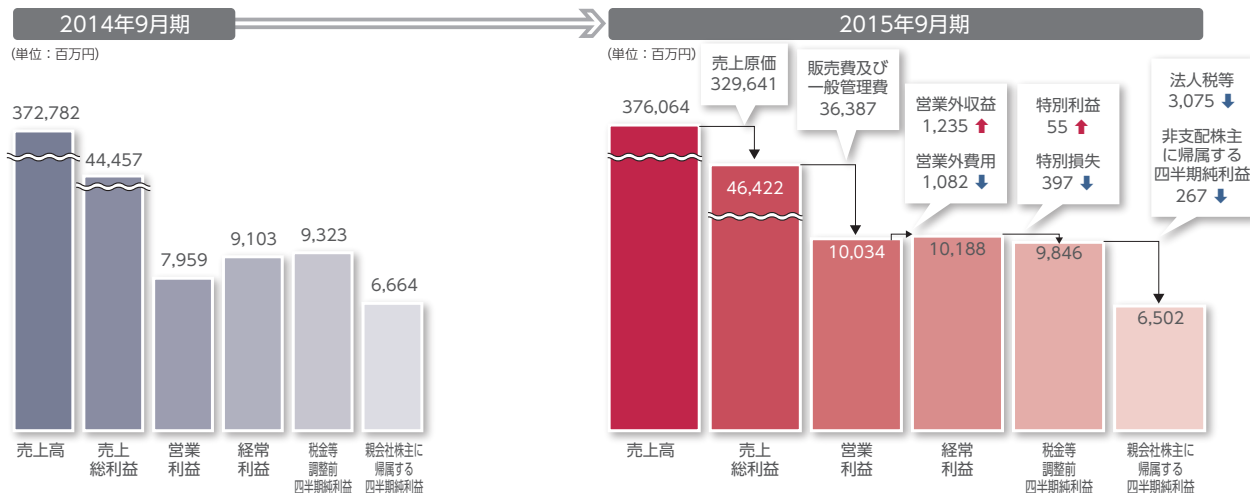
ナガセ ロズマリスト

商品に関するお問い合わせ

フリーダイヤル ☎ 0120-65-3616

ナガセ ビューティケア <http://nbc.jp>

目で見る連結財務諸表



損益の状況

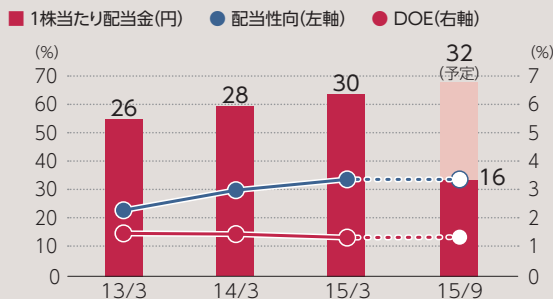
解説 上期の売上状況につきましては、国内販売は1,787億9千万円(前年同期比△3.6%)、海外販売は1,972億7千万円(同+5.3%)となり、売上高は3,760億6千万円(同+0.9%)となりました。

利益面につきましては、売上総利益は、主に海外子会社における売上高の伸長により、464億2千万円(同+4.4%)となりました。また、前第2四半期連結累計期間に台湾子会社において貸倒引当金を計上した影響もあり、営業利益は100億3千万円(同+26.1%)、経常利益は101億8千万円(同+11.9%)となりました。

一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第2四半期連結累計期間と比較して税金費用が増加したこと等により、65億円(同△2.4%)となりました。

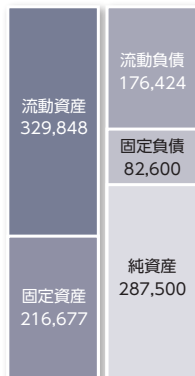
利益配分に関する基本方針

当社は、収益力の向上と企業体質の一層の充実強化を図り、連結業績連動を基礎とした、株主の皆様への安定配当を継続して行うことを基本方針としております。当期の中間配当につきましては前期に比べ1円の増配を実施し、1株当たり16円とさせていただきます。また、期末配当につきましても1株当たり16円、年間ベースでは32円とし、前期と比べて年間2円の増配を予定しております。



2015年3月期

(単位：百万円)



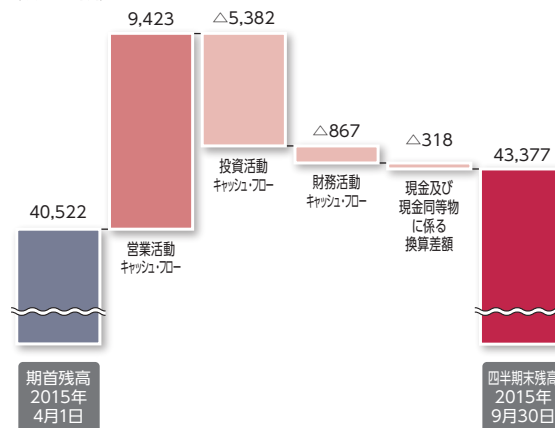
2015年9月期

(単位：百万円)



2015年9月期

(単位：百万円)



資産・負債・資本の状況

解説 総資産はたな卸資産および投資有価証券の減少等により、前期末に比べ143億6千万円減少の5,321億6千万円となりました。負債は、支払手形及び買掛金やその他有価証券評価差額金に係る繰延税金負債の減少等により、前期末に比べ、82億8千万円減少の2,507億3千万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益65億円を計上したものの、その他有価証券評価差額金や、為替換算調整勘定の減少等により、前期末に比べ、60億7千万円減少の2,814億2千万円となりました。以上の結果、自己資本比率は前期末の51.5%から0.3ポイント増加し、51.8%となりました。

キャッシュ・フローの状況

解説 上期における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動による資金の収入94億2千万円、投資活動による資金の支出53億8千万円、財務活動による資金の支出8億6千万円に換算差額による資金の減少3億1千万円を加味した結果、前期末と比べ28億5千万円(+7.0%)増加し、433億7千万円となりました。

ホームページのご案内



当社では多くのステークホルダーの方々に当社の事業内容や強みなどがご理解いただけるようホームページの充実を図っています。コミュニケーションツールのひとつとして、ぜひ、ご活用ください。

URL → <http://www.nagase.co.jp/>

長瀬産業

検索

- ニュースリリース……適時開示情報や新製品情報等に関する情報をタイムリーに掲載しています。
- 企業情報……基本理念、トップメッセージのほか、組織図、役員等に関する情報を掲載しています。
- 事業内容……事業部門、研究開発部門ごとの役割と取り組み等に関する情報を掲載しています。
- IR(投資家情報)……決算説明会資料等のIR資料の随時公開のほか、動画会社案内なども掲載しています。
- CSR(環境・社会)……地球環境保全、社会貢献、コーポレート・ガバナンス等に関する取り組みを掲載しています。
- 採用情報……新卒採用、キャリア採用のほか、ナガセグループの採用情報も掲載しています。

会社概要

商号 長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.

創業 1832年(天保3年)6月18日

設立 1917年(大正6年)12月9日

資本金 9,699百万円

従業員 990名(連結6,298名)

主要な事業所 大阪本社、東京本社、名古屋支店、
ナガセR&Dセンター(兵庫県神戸市)、
ナガセアプリケーションワークショップ(兵庫県
尼崎市)、堺営業所(大阪府堺市)

取締役・監査役

代表取締役会長 長瀬 洋

取締役副会長 長瀬 玲二

代表取締役社長 朝倉 研二

代表取締役 名波 瑞郎

取締役 花本 博志

取締役 森下 治

取締役 佐藤 幸平

取締役 若林 市廊

社外取締役 西口 泰夫

社外取締役 西 秀訓

社外監査役(常勤) 山下 秀男

監査役 松木 健一

監査役 濱口 雅彦

社外監査役 高野 利雄

株式の状況

発行可能株式総数 346,980,000株

発行済株式の総数 127,408,285株

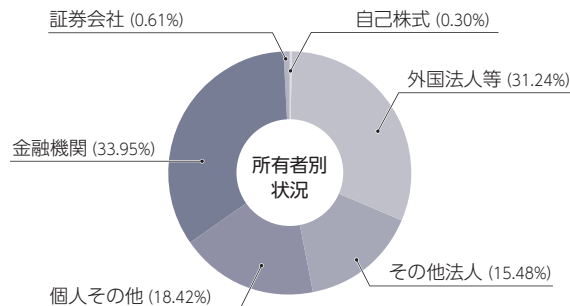
株主数 6,510名

大株主の状況

株主名	当社への 出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6,647	5.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,024	4.73
三井住友信託銀行株式会社	5,776	4.53
株式会社三井住友銀行	4,377	3.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,179	3.28
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	4,016	3.15
長瀬 洋	3,645	2.86
日本生命保険相互会社	3,589	2.82
長瀬 令子	3,573	2.80
三井住友海上火災保険株式会社	2,951	2.32

(注)長瀬洋の所有株式数には、長瀬産業役員持株会名義の株式数が含まれております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)

(電話照会先)

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

ホームページ URL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL <http://www.nagase.co.jp/>

単元株式数 100株

株主に対する特典 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元株以上保有の株主を対象に、自社もしくはグループ会社の商品を贈呈。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

● 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

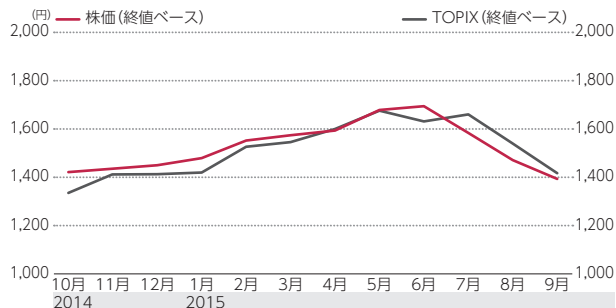
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

● 特別口座について

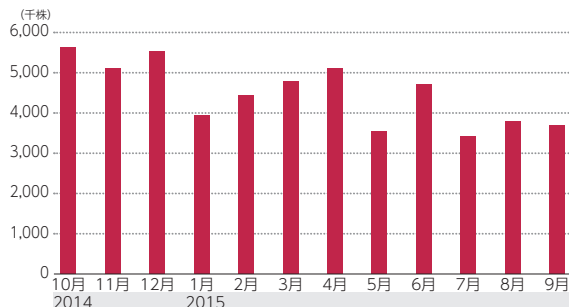
株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株価／出来高の推移 (2014年10月1日～2015年9月30日)

株価の推移



株式売買高の推移



同封の株主さまアンケートにご協力ください

株主の皆さまからの声を今後の経営やIR活動に反映させていただくため「株主さまアンケート」を実施いたします。当株主通信に同封の「株主さまアンケートハガキ」よりご回答いただき、ポストへ投函ください(切手は不要です)。何卒、ご協力をお願い申し上げます。

※本アンケートは当社IR活動の充実以外の目的に利用することはありません。

2000 ISO14001の認証取得

環境問題が深刻化する中で当社は、平成11年5月に「ISO14001」の認証取得を目指し、「地球環境委員会」とその事務局として「地球環境推進チーム」を設置した。ISO14001の目的は、企業の全社的な環境マネジメントシステムにより環境保全及び汚染の予防を継続的に運用し、環境改善をすることにある。また付加効果として、1.「地球に優しい企業」としての企業イメージの向上、2.グリーン調達、国際入札条件などに対応できる「ビジネスパートナー」となる、3.取引先からの「環境配慮の資材調達要求」への対応が考えられる。当社は平成12年4月にISO14001の認証を取得した。

2000 長瀬カラーケミカル株式会社 （現オー・ジー・長瀬カラーケミカル株式会社）発足

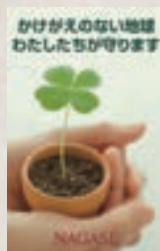
染料事業は創業以来、中核事業の一つであり、当社のマザーデバイスと呼んできた歴史を持つ。しかし、近年は産業構造の変化から国内の市場規模は年々縮小し、事業は厳しい環境下に置かれてきた。こうした状況の中で染料事業の発展を図るため、平成12年4月に、ナガセ染料販売、ナガセ京滋、ナガセ東海、ナガセテクノカラーの販売子会社4社と、当社染料部が担当していた繊維加工関連ビジネスを統合して長瀬カラーケミカル株式会社を設立した。また、長瀬カラーケミカルは平成14年9月に、染色加工業者に対する営業や技術サービスの拡大を推進するため、中国に長瀬有色化学技術（上海）有限公司を設立し、上海テクノセンターを開設した。

2001 新生ナガセケムテックスの新たなスタート

平成13年4月、当社の主要製造子会社であるナガセケムテックス(NCX)、ナガセ化成工業(NKK)、帝國化学産業(TKS)、ナガセ生化学工業(NBL)の4社が合併し、新生ナガセケムテックス株式会社が発足した。この4社統合の目的は3つあった。まずは技術、設備など経営資源の有効活用である。経営資源の有効利用により経営効率が向上し、グローバル市場でコスト競争力の高い商品の提供が可能になるからだ。第二にスケールメリットの追求がある。スケールメリットにより、人的交流の活発化、原料購入や物流の共同化、計画的かつ重点分野に集中した投資等が可能になる。第三は事業分野の有機的な統合と再編である。事業分野の統合・再編でシナジー効果が期待できる。ナガセケムテックスの発足で、市場変化に素早く対応し事業再編や結合をスムーズに推進できる体制を整えたのである。

2001 アセアン、グレートチャイナ拡大戦略

成長が期待できるマーケットへの適切な投資とマンパワーの集中に立ち海外事業、とりわけ香港、台湾を含むグレートチャイナ圏とアセアン市場に経営資源を集中させた。そして平成13年春、長瀬洋社長は、「平成18年度までに合成樹脂、電子材料に加え、染料、化学品の輸出を拡大させる」とも、現地生産事業への投資を積極化させることで、グレートチャイナ市場での売上高1,500億円、アセアン1,000億円を目指す」と宣言した。13年3月期時点の両市場の売上高はともに600億円前後だったが、目標達成への取り組みが奏功し、平成17年度のグレートチャイナ圏売上高は目標を超える1,549億円を達成した。



ISO・社員向け啓蒙カード（現在）



上海テクノセンター



ナガセケムテックス(NCX)

「長瀬産業株式会社の歩み」のバックナンバーについては過去の株主通信（下記URLご参照）をご覧ください。

URL↓
<http://www.nagase.co.jp/ir/library/nagase-report/>

次回へ続く・・・